

**団体名** Good Life Cooking (長門市)

代表者名	長井 彩子	団体の目的
構成員数	5人	食を通じた健康に関する活動を行い、健康寿命の延伸と長門市の飲食店の盛況に寄与する。
設立	2019年(R1)年5月	
問い合わせ先	080-3872-6683 (長井)	

**事業名** 全世代を対象とした食を通じた健康づくり事業

**事業の目的** ・妊婦から子ども、高齢者にいたるまで、全世代を対象とした食を通じた健康づくり事業を行うことで、長門市の健康寿命を県内1位にする。

- 事業の内容**
- ・オンラインで参加！マタニティ交流会&勉強会  
開催日：8月28日 12:00~14:00 場所：旧伊上小学校  
内容：妊産婦を対象とした栄養バランスについての学びと交流
  - ・オンラインで参加！交流会&勉強会  
開催日：9月15日 13:30~14:30 場所：オンライン (LINE)  
内容：中高年を対象とした栄養バランスについての学びと交流
  - ・お子さんも参加可能！青空ヨガ&食で交流  
開催日：9月25日 11:00~13:00 場所：長門湯本温泉温湯前広場  
内容：子育て中の親子によるヨガ体験、栄養バランスについての学びと交流
  - ・山口応援プロジェクトで交流会&勉強会  
開催日：10月11日 11:00~13:00 場所：山口起業ビル  
内容：中高年を対象とした健康管理についての学びと交流
  - ・向陽小学校家庭教育学級メンバーで交流会&勉強会  
開催日：10月15日 11:00~13:00 場所：向陽小学校  
内容：小学生の母親を対象とした食事づくりについての学びと交流

**事業の成果** ・世代別に開催したことにより、世代に合わせた栄養教育を行うことができた。  
・飲食店とともに栄養バランスの整った弁当を開発し、飲食店に栄養教育を行うことができた。

**活動現場レポート** オンラインで参加！交流会&勉強会 (R2.9.15/長門市中央公民館)

この日は、長門市中央公民館のサークル「たのしいスマホ」の皆さんを対象に、講師がいる会場と参加者がいる会場を LINE のビデオ通話で繋ぐ形式で、栄養バランスについての勉強会が開催されました。

参加者が長門市の飲食店「さわやどり」の弁当を食べた後、講師から、食物繊維の量を増やすため主食を雑穀ごはんにしたことや、たんぱく質や糖質のバランスをとるために、黒豆の煮物とそうめんうりの酢の物を入れたことなどの説明がありました。

続いて、あらかじめ提出された参加者からの質問に対し講師が回答され、血糖値の急上昇を防ぐ食べ方など、健康になる食事について熱心に学ばれました。



2人1組でスマホを操作



LINEを使う様子

**団体名** うべ交通まちづくり市民会議（宇部市）

代表者名	村上 ひとみ	団体の目的
構成員数	12人	宇部地域の交通環境の改善に向け、市民の立場で自らの行動変革を促す活動を実行することにより、持続可能な地域社会を実現する。
設立	2010年(H22年)7月	
問い合わせ先	0836-36-9555（宇部市民活動センター「青空」）	

**事業名** 学生・住民参加の自転車通学路点検と自転車ネットワーク利用啓発

**事業の目的** ・宇部市で進める車道自転車ナビマーク路線を含む自転車通学路点検を、高校生・地域住民・行政担当者が連携して実施することにより、整備が進む自転車ネットワークの適正な利用、左側通行の徹底等の自転車交通ルールを啓発する。

**事業の内容** ・自転車通学路点検ワークショップ  
 開催日：9月4日 16:00~18:15 参加者：17人  
 場所：県立宇部工業高等学校会議室及び通学路  
 内容：・高校生、地域住民、道路管理者が実際に自転車で通学路を走行  
 ・道路整備の問題点や交通ルールの啓発の仕方、事故の防止について話し合い  
 ・自転車通学路等の実態調査  
 5月：琴芝通り（ナビマーク整備箇所）  
 1月：宇部高校通学路（ナビマーク整備前）  
 ・自転車安全走行冊子の配布（市内の中学校卒業生：12校 1,202人）  
 ・宇部市自転車活用推進計画策定協議会への参加（4月～7月）

**事業の成果** ・ワークショップで高校生等に自転車を車両と意識しながら実際に通学路を走行・観察してもらうことで、今後の活動に繋がる具体的な意見が得られた。

**活動現場レポート**

学生・住民参加の自転車通学路点検と自転車ネットワーク利用啓発

〈R2.9.4／宇部工業高校〉

この日は、宇部工業高校の生徒会役員、指導教員、宇部市道路整備課職員を対象に、自転車ネットワークについて学ぶワークショップが開催されました。

まず、2グループに分かれて、自転車が通行すべき部分や進むべき方向を示す「自転車ナビマーク」が既に整備されているコースと、今後整備予定のコースを点検しました。

点検後は学校に戻り、気づきやルールの確認等の意見交換が行われ、特に問題はないように見える路線でも、実際に走行してみると、道路の狭さや段差、横から出てくる車、逆走する自転車等、様々な問題があることが報告されました。

最後に、スタッフから生徒たちに、「自転車は自動車と同じ扱いとなるため、道路状況を見ながら車道を走り、左側通行を徹底してほしい」とあらためて啓発されました。



車道を走行して点検



意見交換

**団体名** 赤間関街道中道筋連絡協議会（萩市）

代表者名	内村 幹雄	団体の目的
構成員数	116人	下関から萩までの歴史的な文化遺産である「赤間関街道中道筋」の全線を3市の5団体が連携して保護・保存・活用する活動を行い、地域や後世に広め伝える。
設立	2017年(H29年)1月	
問い合わせ先	0838-55-0817 (内村)	

**事業名** 赤間関街道中道筋ウォークによるにぎわいづくり事業

**事業の目的** ・ 赤間関街道中道筋全線を保護・保存・活用するため、街道を多くの方がガイドマップを片手に歴史や文化を学びながら歩くことで、街道筋の市町をアピールして今後の地域の活性化につなげる。

**事業の内容** ・ 第3回赤間関街道中道筋リレーウォーク  
幕末、多くの志士達が歩いた歴史街道「赤間関街道中道筋（52.8km）」を5区間に分け、協議会を構成する5団体が各区間を運営し、山口ゆめ回廊博覧会のゆめ散歩プログラムとしてリレーウォークを実施

区分	開催日	場所	参加人数
第1ステージ	10/18	広谷～上領八幡宮（13.3km）	42人
第2ステージ	10/25	上領八幡宮～植松（9.0km）	45人
第3ステージ	11/8	植松～東行庵（10.7km）	35人
第4ステージ	11/29	一ツ橋～広谷（11.0km）	43人
第5ステージ	12/6	一ツ橋～明木宿（8.8km）	36人

**事業の成果** ・ 感染症予防のため参加人数を縮小したがすぐに定員に達し、コロナ禍でも盛会に実施できたことは、大会運営の大きな自信に繋がった。  
・ 沿線住民の理解が進み、街道の事前の草刈りや当日運営にスタッフとして一緒に活動していただいたことで、継続実施に向け支援体制の強化ができた。

**活動現場写真**

旧街道を歩く参加者



ガイドの説明を聞く様子

**団体名** 特定非営利活動法人降松平和の里ハイキングの会（下松市）

代表者名	永田 憲男	団体の目的
構成員数	80人	健康づくりと文化遺産を守り活用する事業を行い、地域社会の健全な発展及びまちづくり、観光など地域の活性化に寄与する。
設立	2014年(H26)年9月	
問い合わせ先	0820-26-0829（岡崎）	

**事業名** スローハイキング大会 in 中宮2020・兼スロージョギング特別講習会

- 事業の目的**
- ・地域住民の健康づくりに役立てる。
  - ・日本の伝統文化を保全・継承する活動に繋げる。
  - ・中宮山ハイキングコースを観光資源に導く。

- 事業の内容**
- ・ハイキングコース整備事業  
開催日：4月～2月（11回） 場所：中宮山ハイキングコース  
内容：清掃、植樹、補植、雑木伐採等
  - ・文化遺産勉強会  
開催日：9月4日 場所：下松市中央公民館 参加者：5人  
内容：歴史（文化遺産・史跡）とボランティアが必要な社会状況の解説
  - ・スローハイキング大会 in 中宮2020 兼スロージョギング特別講習会  
開催日：10月4日 場所：中宮山ハイキングコース 参加者：120人  
内容：中宮山でのハイキングとスロージョギング体験
  - ・桜植樹祭  
開催日：2月29日 場所：中宮山ハイキングコース 参加者：6人  
内容：ハイキングコースに桜6本を植樹
  - ・パンフレット「中宮の歴史案内」の発行（発行部数 2,000部）

- 事業の成果**
- ・活動により、「中宮山ハイキングコース」の認知度が上がり、ハイキングを行う人が増加した。
  - ・市内の小中学校で、「中宮山ハイキングコース」で遠足を行う学校ができた。

**活動現場レポート** スローハイキング大会 in 中宮2020 〈H2.10.4/吉原児童遊園〉

中高年の方々を中心に、約120人が参加し、スローハイキング大会が開催されました。9時からの開会式では、プログラムの説明や講師等の紹介の後、全員でラジオ体操を行いました。

体操の後は、日本スロージョギング協会の清水登志子さんの指導により「スロージョギング特別講習会」が実施されました。

講師を手本に、ゆっくり1分間走る・ゆっくり1分間歩くを繰り返すスロージョギングの基本動作を行い、参加者の皆さんは熱心に取り組まれました。

休憩を挟んでスローハイキングが行われ、ゴールの中宮公園まで片道2kmのコースを、弁当や飲み物を片手に楽しそうに歩かれました。



スロージョギング特別講習会



スローハイキング

**団体名** まちの住民館「あかり」(岩国市)

代表者名	大久保 妙子	<b>団体の目的</b> ・誰もが自分らしく、ほっと出来る居場所であることを基本とする共生社会の実現を目指し、地域社会に根差した活動を行い、地域コミュニティを構築する。 ・市民活動団体のサポートや団体をつなぎ、更なる活動の活性化を図る。
構成員数	5人	
設立	2018年(H30)年4月	
問い合わせ先	050-5329-3197 (村上)	

**事業名** キッチンを通して 人・食・地域を結ぶプロジェクト「地域の台所」開催事業

- 事業の目的**
- ・老朽化した空き家を、住民誰もが集い、交流や学習のできるコミュニティスペースとして活用できるよう、地域住民みんなの力でリノベーションする。
  - ・誰もが安心して住むことのできる環境づくりの一環として、「人と人をつなぐ」をテーマにしたイベントや認知症カフェを開催する。

- 事業の内容**
- ・「食」を通じたコミュニティ「地域の台所」  
場 所：まちの住民館「あかり」 参加者：70人

開催日	活動内容
6月28日	みんなのキッチン座談会 ・異業種の人が地元の農産物で作った食事を楽しみながら意見交換
7月19日	陶芸イベント ・陶器のキッチングッズを作るワークショップ
9月11日 ～13日	大工仕事 (DIY) を体験 ・床の張り替えや水道の配管等の作業工程の見学と体験
10月18日  31日	太陽光エコイベント ・子どもたちと太陽エネルギーの実験と温水器づくり 蕎麦打ち DE つながろう ・蕎麦づくりと食事を楽しみながら台所の使い方等を意見交換
12月13日	畑の恵み感謝祭&癒しのアロマ講座 ・子どもたちと冬野菜の収穫やアロマでリラックスしながら交流

- 事業の成果**
- ・住民参加型のイベントにより、ゆるやかな交流が生まれ、地域の絆づくりや支えあいに繋げることができた。
  - ・高齢者や共働きなど料理が困難な人たちに、安心な食材をおいしく調理し楽しく食べることのできる場づくりができた。

**活動現場写真**



太陽光エコイベント



蕎麦打ち DE つながろう

**団体名** 琴石グリーン村（柳井市）

代表者名	難波 勝文	団体の目的
構成員数	35人	琴石山麓の動植物の生態に関する調査研究・保護、登山道・林道の保全整備、里山の再生、耕作放棄地を活用しての営農、歴史や民族に関する調査研究などの活動を通じて豊かなコミュニティづくりと地域の活性化に寄与する。
設立	2017年(H29)年4月	
問い合わせ先	090-3889-8797（難波）	

**事業名** 柳井市のシンボル「琴石山」を核にした地域活性化事業

**事業の目的** ・柳井市のシンボル琴石山にスポットをあて、①信仰、②観光、③健康をキャッチフレーズに、①住民の心に寄り添い、②人を呼び込み、③健康で元気な活動に取り組み地域の振興に寄与する。

**事業の内容** ・市道琴石線の整備  
 開催日：①7/28、7/29、7/30 ②10/27、11/8、11/10、11/11  
 内容：①流失市道の補修 ②市道の舗装 参加者：32人  
 ・琴石古道「七つ星巡り」の整備  
 開催日：4月～3月（58回） 場所：春日神社、周陽八拾八ヶ所等  
 内容：春日神社－教会所跡地－荒神社－正福寺跡地間の古道の整備  
 ・きのこ狩りと琴石山麓の自然に親しむ集い  
 開催日：9月27日 10:00～13:40 場所：正福寺の森公園 参加者：39人  
 内容：里山の散策、きのこの採集と観察会、きのこの名前あてクイズ等  
 ・岩見神楽を楽しむ会  
 開催日：10月17日 14:00～15:00 場所：春日神社  
 内容：岩見神楽（恵比寿、八岐大蛇）の奉納、マジックショー

**事業の成果** ・古道の整備が進むにつれ、少しずつ地域住民の理解が広がり、活動への協力が得られるようになった。  
 ・きのこ狩りなど自然体験によりふる里を愛し守る心を育てることができた。

**活動現場レポート** きのこ狩りと琴石山麓の自然に親しむ集い〈R2.9.27／正福寺の森公園〉

開会式の後、全員で琴石山に入りきのこ採集が始まりました。1時間もすると、大小様々なきのこを入れた袋を持って参加者が次々に帰ってきて、きのこの名前を確認しました。多い人は20～30本も採取していました。

昼食休憩の後、きのこ採りの表彰が行われ、大物部門では、「カワラタケ」を採った小学生が、めずらしい種類部門では、「ムサシタケ」と「クチベニタケ」を採った小学生が表彰されました。

続いて、きのこの名前当てクイズが行われ、日頃見ることのないきのこを目にして、子どもはもちろん大人も興味深い様子でチャレンジしていました。

最後に、イベントを指導された「なばの会」の皆本さんから、暑い中一生懸命取り組まれた参加者全員に、ねぎらいの言葉がかけられました。



きのこ採り



きのこの名前を確認

**団体名** しあわせ花の会（柳井市）

代表者名	原田 洋子	団体の目的 心を豊かにする花やハーブを育てることを通じて、個人と家庭に心の豊かさをもたらし、花いっぱい町づくりを進める。
構成員数	10人	
設立	2012年(H24)年9月	
問い合わせ先	080-4261-8209（原田）	

**事業名** 地域を元気に！伊陸ラベンダー園創出事業

**事業の目的** ・高齢化のため耕作放棄地が増えた柳井市伊陸の休耕地を有効利用し、人々が憩える場をつくることで地域を活性化する。

**事業の内容** ・ラベンダー収穫祭  
開催日：6月28日 9：00～13：00 場所：いかちラベンダー園  
内容：・ラベンダーの収穫体験、ラベンダーレモネードの試飲  
・ワークショップ「ドライフラワーづくり」  
参加者：27人  
・園芸教室  
開催日：10月3日 10:00～12:00 場所：いかちラベンダー園  
参加者：12人  
内容：・ハーブの育て方（話し手：原田洋子会長）  
・宿根草の挿し木、春の花の種まき体験

**事業の成果** ・収穫体験を通じて、農薬や化学肥料を使わない自然農法の良さを啓発できた。  
・SNSでの紹介や口コミにより、市外や県外からの来園につながった。

**活動現場レポート** ラベンダー収穫祭〈R2.6.18／伊陸ラベンダー園〉

収穫祭は、当初2日間の計画でしたが、雨天のため1日目は中止とされ、2日目のみの開催となりました。

参加者はまずラベンダーのレモネード風ドリンクで来園を歓迎され、自己紹介をし合った後、ラベンダーで作られたポップリやエッセンシャルオイルを試したり、収穫体験をしたり、色々な体験をされていました。

園には、ラバンディンとイングリッシュラベンダーの2種が植栽されていて、会の方から、ラバンディンを使ったドライフラワーの作成方法の紹介や、「イングリッシュラベンダーは小ぶりでも香りや成分がよいので、精油やアロマエッセンシャルに使用している」といった説明がなされていました。

自由なスタイルで参加しながら、苗の育て方などの話に花を咲かせ、参加者の交流が進んでいました。



ラベンダーの収穫体験



参加者同士の交流

**団体名** ふるさと維新YYプロジェクト（柳井市）

代表者名	濱尾 啓大	団体の目的
構成員数	10人	会員相互の親睦と会員の地位向上を図るとともに、箭内地区の発展に寄与する。
設立	2018年(H30年)10月	
問い合わせ先	080-1637-3175（松田）	

**事業名** 柳井地区防災力強化事業

**事業の目的** ・ 防災講演会と防災フィールドワークの実施により、柳井地区住民の防災に向けた見識と意識の向上や、各種災害に備えた地区の関係づくりを進める。

**事業の内容** ・ 防災講演会  
 開催日：11月7日 14:30～16:00  
 場所：柳井市西福祉センター 参加者：30人  
 内容：ビデオ放映の後、Zoomで講師と会場を繋いでの質疑、意見交換等  
 講師：宇津木 慎司さん（工学博士・技術士）

・ 防災フィールドワーク  
 開催日：①11月28日 10:00～12:00 ②12月6日 10:00～11:30  
 場所：①広瀬・瀬戸川地区 ②北町・東向地地区 参加者：46人  
 内容：防災マップの危険個所を実際に歩きながらルートや現場の状況を確認

・ 記録DVD「防災講演会～柳井市の地盤と災害想定～」の作成・配布

・ 講演会で放映したビデオをYouTubeで配信

**事業の成果** ・ 講演会やフィールドワークにより、地域住民の防災意識の向上と自治会内の連携を促進することができた。

・ 提供したDVDが学校の防災授業の教材として使用され、啓発が進んだ。

**活動現場レポート** 防災講演会〈R2.11.7/柳井市西福祉センター〉

コロナの関係で、場所をアクティブやないから西福祉センターに変更して開催されました。

講演では、講師の宇津木慎司さんはZoomで東京から参加されたため、予め作成のビデオにより、他県での事例等を踏まえ、柳井市の地盤や想定される災害、ハザードマップの見方等について説明されました。

参加者から、「災害時に地元の住民がどのように対応すればよいか」等の質問があり、柳井市のハザードマップをもとに、避難場所や経路について具体的な説明がされました。身近な事例に皆さん真剣に聞いておられ、大変参考になるものでした。

講演終了後は、県自主防災アドバイザーの井上さんが、柳井市保管の防災食（御飯）を参加者全員に配布されました。



講師の説明を聞く参加者



Zoomによる質疑応答



**団体名** 縄地ヶ鼻公園振興会（山陽小野田市）

代表者名	藤井 征男	団体の目的 自然豊かな縄地ヶ鼻公園の利活用を推進し、併せて利用者の心が和み、心身のリフレッシュができる場所を提供することにより、地域での交流推進や活性化を図る。
構成員数	60人	
設立	2008年(H20年)5月	
問い合わせ先	090-3178-8719（井上）	

**事業名** 縄地ヶ鼻公園を活用した地域にぎわい創出事業第2期

- 事業の目的**
- ・5カ年間で公園内に水仙を植栽して水仙公園化を進め、多くの地域住民が訪問して交流できる場所づくりを行い、地域の交流を推進する。
  - ・子どもたちが四季を通じて楽しめる仕掛けを充実させ、気軽に集まり楽しみ、遊ぶことができる居場所づくりを進める。

- 事業の内容**
- ・「カブトムシの里」整備事業  
開催日：6月10日 場所：縄地ヶ鼻公園 参加者：5人  
内容：カブトムシの育成場所の整備
  - ・「水仙で来園者を呼び込もう！」作戦  
日時：10月14日 場所：縄地ヶ鼻公園 参加者：150人  
内容：公園法面に児童や地域住民などが水仙の球根を植栽（約3,500個）
  - ・環境保全  
開催日：7月～2月（5回） 場所：縄地ヶ鼻海岸等 参加者：210人  
内容：・地域住民とともに、縄地ヶ鼻海岸の砂浜や岩礁への漂着物を回収  
・公園の水仙花壇を除草、施肥、植栽により整備
  - ・令和元年度水仙まつり俳句大会の優秀句の立札設置

- 事業の成果**
- ・地域住民、地元児童が自分たちで植栽したことで、公園や地域の貴重な自然に愛着を持つことに繋がり、公園への訪問者が増加した。
  - ・マスコミで取り上げられる機会が増え、俳句大会では、地元以外の児童の投稿が増え、今後の来園への期待が高まった。

**活動現場レポート** 「水仙で来園者を呼び込もう！」作戦〈R2.10.14／縄地ヶ鼻公園〉

今回は、コロナの関係で昨年度より規模を縮小しての開催となりましたが、地域住民、市職員等に加え、高泊小学校からも6年生40人が参加されました。

開始に当たり、段取りや注意事項等が事務局から説明されました。小学生でも植栽しやすいように、先に大人だけで法面を区画ごとに耕し、球根を並べる準備を行いました。子どもたちは、サポートの方から雨で流れてしまわないようしっかり植えること等のアドバイスを受けながら作業しました。昨年も経験していることもあり、植栽は順調に進み、予定どおり終了し、最後に児童から感謝のお礼の挨拶がありました。

地域全体を巻き込み、参加者からも、「公園をより良くしたい」という思いが伝わってくる活動となりました。



球根の植栽



児童からお礼の挨拶

**団体名** ネット山陽（山陽小野田市）

代表者名	河口 レイ子	団体の目的
構成員数	693人	山陽地区女性団体の連絡・協議を密にして、女性の社会参加活動の促進を自主的に図り、女性の地位向上と福祉の増進に資する。
設立	2005年(H17年)9月	
問い合わせ先	0836-73-2436（河口）	

**事業名** 厚狭駅での地域の観光・祭りの紹介により地域のにぎわい・交流を創出  
～ハブ駅としての厚狭駅の活用により厚狭・美祢・長門に元気を！～

**事業の目的** ・厚狭駅新幹線口において、山陽小野田市・周辺地域の行事・イベント・名所旧跡を中心とする文化・伝統を紹介することで地域のにぎわい・交流を創出する。

**事業の内容**

- ・花壇の整備  
開催日：6/15、6/17、11/22 場所：J R 厚狭駅新幹線口周辺  
内容：花壇の土づくり、苗の植え替え等
- ・「ふるさとコーナー」の設置  
開催日：6月18日 場所：J R 厚狭駅の新幹線口1階ロビー  
内容：地元の名所やお祭り等を紹介する展示により、地域の魅力をPR
- ・ネット山陽研修会  
開催日：7月13日 場所：厚狭地区複合施設 参加者：35人  
内容：古新聞を使ったエコバッグ作り  
講師：内藤美恵子さん（山陽小野田消費者の会山陽支部代表）
- ・バス停留所の標識への名所・旧跡紹介の掲示  
開催日：8月22日 場所：J R 厚狭駅新幹線口前  
内容：バスの運行ルート周辺の名所・旧跡の紹介文を掲示

**事業の成果**

- ・厚狭駅に展示コーナーを設置したことにより、地域住民や観光客等多くの人にふるさと魅力を伝えることができた。
- ・会員相互が目的意識を共有することで、組織への関りが深まった。

**活動現場レポート** ネット山陽研修会（R2.7.13／厚狭地区複合施設）

7月1日からレジ袋の有料化が始まったことをきっかけに、家庭でのエコ活動に役立てていただこうと、新聞紙を使ったエコバックの作り方を学ぶ研修会が開催され、地域住民や会員など35人が参加しました。

初めに、講師の内藤美恵子さんから、家庭でできるエコ活動とエコバックの作り方の説明があり、続いて実演が行われました。参加者は、講師の指導を受けながら、和やかな雰囲気の中で、1時間ほどで思い思いのエコバックを完成させていました。

今回のエコバックづくりは、家庭でのエコ活動に役立てていただくほか、作ったエコバックを厚狭駅新幹線口1階ロビーに設けた「ふるさとコーナー」にも設置し、売店や自販機等の利用者が困らないようにしたいとのことでした。



エコバッグ作り



J R 厚狭駅構内の「ふるさとコーナー」

**団体名** 花の咲く夕日の里づくりの会（周防大島町）

<b>代表者名</b>	木村 庄吉	<b>団体の目的</b>
<b>構成員数</b>	31人	周防大島町外入地域において、耕作放棄地の再生や景観環境の整備、歴史の掘り起こしによる次世代への継承等により、町内外の多くの人に地域を知ってもらい、地域の将来の発展に寄与する。
<b>設立</b>	2014年(H26年)4月	
<b>問い合わせ先</b>	090-4443-2951（木村）	

**事業名** 耕作放棄地の活用と、景観・史跡等の再生

**事業の目的** ・耕作放棄地の再生や景観整備により、町内外の人を地域に呼び込み、過疎化する地域の活性化を図る。

**事業の内容** ・定期整備事業  
 開催日：毎月第2水曜日、第3土曜日 場所：磯兼屋敷跡、夕日の丘等  
 内容：ホテルの里、アーモンドの丘、県道沿い桜植樹等の草刈り  
 ・景観整備事業

開催月	活動内容
4月	夕日の丘の整備、「幸せの鐘」の設置、ニホンミツバチの巣箱製作 シイタケ栽培、アサギマダラ飛来地での植栽
6月	アーモンドの丘にアーモンドの苗木の補植
9月	磯兼屋敷跡及び周辺地、菖蒲園等の整備（～12月まで）
11月	耕作放棄地に菜の花の植栽、桜の植樹 アサギマダラ飛来地での植栽
12月	山田神社拝殿で、民俗学者宮本常一の写真等の展示（～2月まで）
1月	城山登山道の整備、東和中学校の野外教育の登山ガイド協力
2月	往還道及び石積段畑の整備

・アサギマダラ観察月間  
 開催日：10月1日～31日 場所：アサギマダラ園 参加者：1,500人  
 内容：アサギマダラの鑑賞、飛来コース等の展示、ミニヤギとのふれあい

**事業の成果** ・アサギマダラ園や登山道等の整備や幸せの鐘の設置、四季折々の花・樹木の植栽などにより、町内外から多くの観光客が訪れるようになった。

**活動現場写真**



竹林伐採跡地や耕作放棄地にアーモンド・桜・菜の花等を植栽

アサギマダラ観察月間

**団体名** 川棚温泉観光ボランティアガイドの会（下関市）

代表者名	小田 紘幸	団体の目的
構成員数	14人	会員相互の協力により観光ガイドで川棚温泉近郊の魅力 を発信し増進することで、町の活性化を目指す。
設立	2011年(H23)年5月	
問い合わせ先	083-774-3855（村上）	

**事業名** 下関城郭サミット2 城郭カードコレクション

**事業の目的** ・下関市内の山城・城郭を紹介する「下関城郭カード」を制作し、市民が学習し実際に興味を持って訪れるきっかけを作り、交流人口の増加と地域の活性化に繋げる。

**事業の内容**

- ・デザイン会議  
開催日：5月～1月（14回） 場 所：川棚温泉交流センター  
内 容：制作スケジュール、デザイン、リーフレット、アンケート、ウェブサイト等の検討
- ・進捗報告会  
開催日：7月5日、9月27日、3月28日 場 所：川棚温泉交流センター  
内 容：制作の進捗状況の報告、意見交換
- ・カード等の製作  
内 容：・串崎城、長府陣屋、下大野城、城光寺城等を紹介する「下関城郭カード」12種類（合計4,000枚）  
・カードの説明、集める手順、地図を掲載した「攻略リーフレット」（5,000枚）
- ・カード及びリーフレットの配布の協力依頼  
開催日：8月～3月  
依頼先：市内小学校、公民館、博物館、社寺等

**事業の成果** ・下関市内の山城・城郭を周知するためのツールとして、子どもたちが興味を持ち楽しみながら学習できるカードを完成させることができた。

**活動現場写真**

デザイン会議



下関城郭カード及び攻略リーフレット

**団体名** 豊北郷土文化友の会（下関市）

代表者名	熊井 清雄	団体の目的
構成員数	192人	豊北町及び近隣地域に残された文化遺産を守り、それらを通して郷土の歴史や伝統文化を継承する。
設立	1973年(S48年)4月	
問い合わせ先	083-783-0300（阿部）	

**事業名** 豊北の歴史・文化活動の継承と推進

**事業の目的** ・豊北の歴史・文化の研究を深め、その成果を広く市民に発信することにより、地域の文化水準の向上に貢献するとともに、地域の活性化に結び付ける。

**事業の内容**

- ・講演会  
 開催日：8月2日 13:00～15:30 場所：豊北歴史民俗資料館 場所：17人  
 内容：地元につながる民間信仰、伝統行事等を紹介し、調査・研究を進める上で大切な視点を学ぶ講演会  
 講師：吉留 徹さん「豊北の民俗 その特色」
- ・歴史文学講座  
 開催日：9月27日 13:00～15:30  
 講師：高岡 勲さん「豊北の北前船～豊北町浦々の廻船」  
 10月26日 13:00～15:30  
 講師：熊井清雄さん「毛利氏歴代の事歴」  
 1月24日 13:00～15:30  
 講師：阿部和正さん「古文書が語る豊北の歴史」  
 場所：豊北歴史民俗資料館 参加者：111人  
 内容：豊北地域の歴史や文化を学ぶ講座
- ・歴史文化誌「和海藻（にぎめ）」、友の会だより「ふれあい」の編集・発行

**事業の成果** ・歴史文学講座には、コロナ禍にもかかわらず、下関市外からも多くの参加があり、郷土の歴史や伝統文化を広く啓発することができた。

**活動現場レポート** 歴史文学講座「豊北町と北前船」〈R2.9.27／豊北歴史民俗資料館〉

この日は、下関市在住で北前船研究者の高岡勲さんによる講座が開催されました。

講師は、江戸時代に貨物運搬船として国内の流通を支えていた「北前船」の航海ルートや日数、寄港地の繁栄ぶり等について、資料やプロジェクターを使って分かりやすく説明されました。

参加者は、豊北地域の特牛浦、阿川浦、肥中浦等にあった船宿や宿場町のにぎやかな風景を想像している様子で、熱心に聴講されていました。講演後も、北前船を作るような造船所がこの地域にあったのか等積極的に質問があり、地域の歴史に対する関心の高さが伺えました。

豊北の歴史・文化を多くの人に知ってもらう機会となっていました。



講座の様子



古い漁具の展示

**団体名** 明日を紡ぐ大地の会（山口市）

代表者名	福島 光子	団体の目的
構成員数	8人	草の根の文化活動を通じて、県民のふるさとへの愛と誇りを高め、平和で心豊かな山口県を築く。
設立	2010年(H22年)4月	
問い合わせ先	083-921-2476（福島）	

**事業名** 明日を紡ぐ大地の会創立10年記念事業

**事業の目的** ・ふるさとゆかりの芸術遺産の発掘・再生や、地域の多様な芸術集団の共同発表により、ふるさとの自主的な文化芸術活動の育成と活性化に貢献する。

**事業の内容** ・第7回女流芸術家発表交流会  
 開催日：7月26日 13:30～15:45  
 場所：山口市民会館 参加者：120人  
 内容：・ケーナ演奏（平尾節幸さん）  
 ・日本舞踊（花柳流「むつみ会」）  
 ・劇と紙芝居「うた時計とごん狐－新美南吉の世界」（明日を紡ぐ大地の会）  
 ・2020市民みんなの文化祭  
 開催日：11月22日  
 場所：ニューメディアプラザ山口 参加者：180人  
 内容：・ハーモニカ演奏（ハモールカ）  
 ・ケーナ演奏（平尾節幸さん）  
 ・バンド演奏（フレンズ&ゆずっこ）  
 ・日本舞踊（花柳流「むつみ会」）  
 ・サクソフォン演奏（Ototumugi、サクソフォン・アンサンブルJr）  
 ・朗読喜劇「富岡先生」（明日を紡ぐ大地の会）

**事業の成果** ・地域の芸術家が、ジャンルを超えて相互に学び、成長することができた。  
 ・公演を重ねるごとに観客数も伸び、文化芸術による平和で心豊かなふるさとづくりへの理解が進んだ。

**活動現場レポート** 第7回女流芸術家発表交流会〈R2.7.26／山口市民会館〉

この日は、創立10周年記念事業の一つである「女流芸術家発表交流会」が開催されました。

冒頭、福島事務局長の挨拶で、「こんな時期だからこそ、文化の力で市民を励ましたい」と熱い思いを語られ会場から賛同の拍手が沸き上がっていました。

今回出演されたのは市内で活動する2団体と1個人で、途中休憩を挟みながら、日頃の成果を披露されました。また、当会は新見南吉をテーマに「うた時計」と「ごん狐」の2作品の朗読劇を披露されました。

事前に「コロナ禍で練習場所にも困っている」との相談を受けていましたが、それを感じさせない素晴らしい完成度で、会場の皆さんも作品の世界に引き込まれている様子でした。



朗読劇「うた時計」



感染症対策をとって開催

